

民法の流れ図

中山 秀 登

はじめに

A 編と編との関係

B 章と章との関係

C 節と節との関係

D 款と款との関係

E 条文と条文との関係

F 条文（本号，第2編 物権，第9章 質権）

むすび

凡例

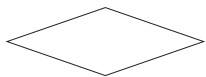
流れ図については，寺田文行ほか編・高校数学解法辞典，1205頁以下「コンピュータ」を参照した。同書1206頁によれば，



は，「はじめ」と「おわり」を示す。



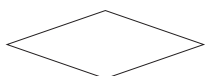
は，「計算式など処理の内容をかく。」



は、「判断の条件をかきこみ,それによって分岐する。」

ということである。

本稿では,



のばあいには, YはYesすなわち, 「はい」を表し,

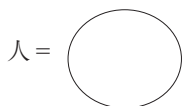
NはNoすなわち, 「いいえ」を表す。

数字だけ書いてあるばあいは, 条文を表し, 項は① ②などと表す。

注は, (1) (2)・・・などとして表す。

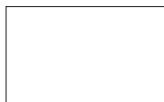
注のなかで, 図をもちいて説明する。以下のように, 図の意味を決めておく。

権利・義務の主体＝



権利・義務の主体である, 人を丸で表すのにたいし, 権利・義務の客体は, 何かあることであり, 四角形で表す。すなわち,

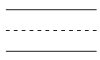



権利・義務の客体＝



人が, 何かある権利を持っている, あるいは義務を負っているというばあい, 人と権利・義務の客体は, 線で結ばれている, と考える。そこで, つぎのように表す。

————— は, 権利があることを表す。たとえば, 債権。

————— は, 所有権があることを表す。所有権は, たとえて言えば, 太い綱である。

- 
 制限物権の設定は，所有権の太い綱から，一本の糸を取り出すことを表す。左図で，点線は，制限物権が取り出されている状態を表す。
- 
 は，占有権があることを表す。
- 
 は，義務があることを表す。たとえば，債務。
- 
 は，「売る」，「買う」などの意思表示などを表す。

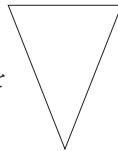


は，不動産にかんする物権の変動の対抗要件を表す。



は，動産にかんする物権の譲渡の対抗要件を表す。

参考までに，対抗要件を



で表したのは，つぎのイメージによる。

中世ヨーロッパの騎士が，片手にもっていた盾のイメージである。相手からの，攻撃を防ぐ盾の形は，おおよそ逆三角形であった。そこで，逆三角形の形で，対抗要件を表す。もう一つ，他の例を挙げる。パソコンのゲームにあるピンボールのなかで，上から落ちてくる球を跳ね返す，クリッパーという逆三角形の道具がある。相手方の意思表示が球の動き，とすれば，球を跳ね返すのが，クリッパー，である。

第2編 物権

第9章 質権

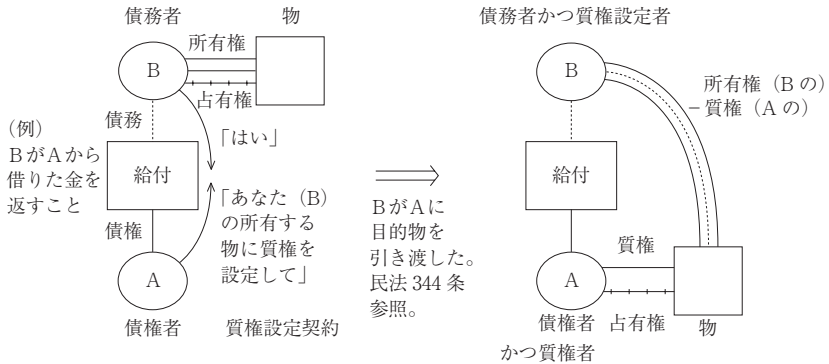
第1節 総則

第342条

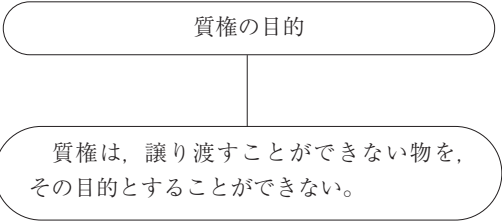
質権の意義

質権者は、その債権の担保として債務者
または第三者から受け取った物を占有し、
かつ、その物について、他の債権者に先立っ
て、自己の債権の弁済を受ける権利を有する。(1)

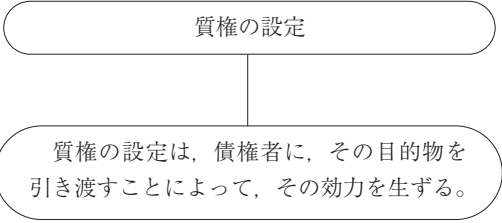
- (1) 債権者かつ質権者をA, 債務者かつ質権設定者をBとする。下図の右で、Bの所有する物の所有権を表す、太い綱から、Aが質権という一本の糸を取り出して、自己つまりAに結びつけている。Bの所有権のなかの点線は、Aのもつ質権という一本の糸が、抜き出されている状態を表す。質権の図については、以下同様。水本浩・注釈民法(1)総則・物権〔第2版補訂〕312頁によると「質権者は被担保債権の債権者にかぎる。」



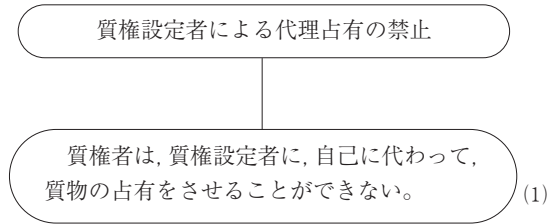
第343条



第344条



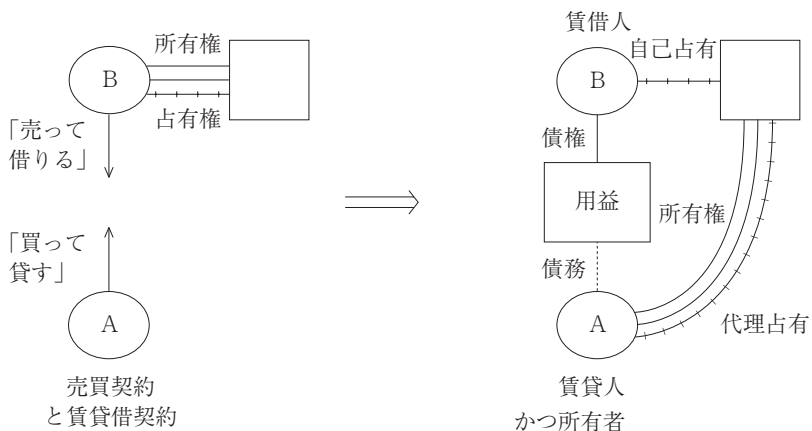
第345条



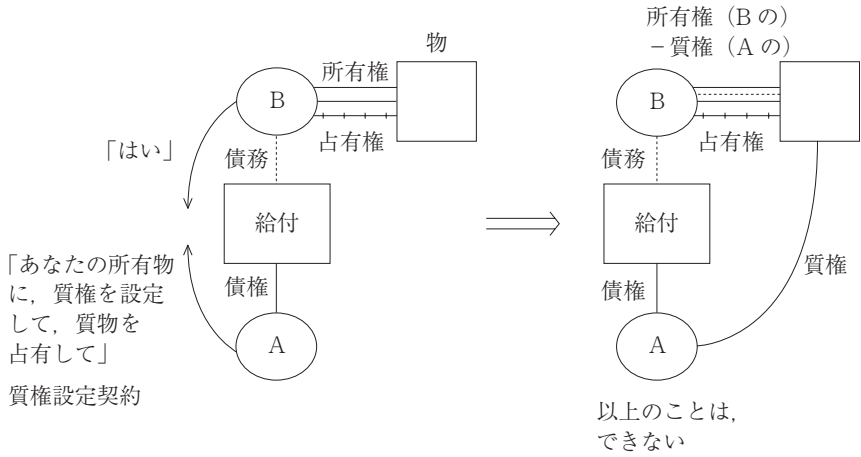
(1) 本条によって、民法183条の占有改定は、禁止される。質権者をA、質権設定者をBとする。民法183条を、本条に当てはめると、つぎのようになる。

「代理人（B）が、自己（B）の占有物（質物）を、以後、本人（A）のために占有する意思表示をしたときは、本人（A）は、これによって占有権を取得する。」はじめに、民法183条の占有改定を図解する。

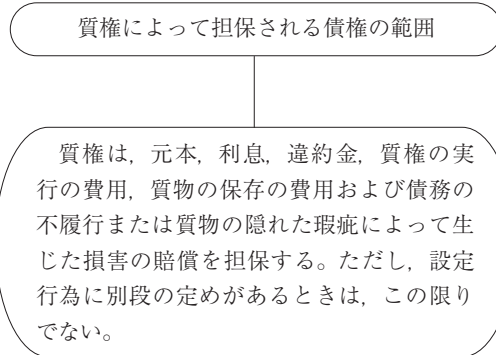
〔占有改定〕



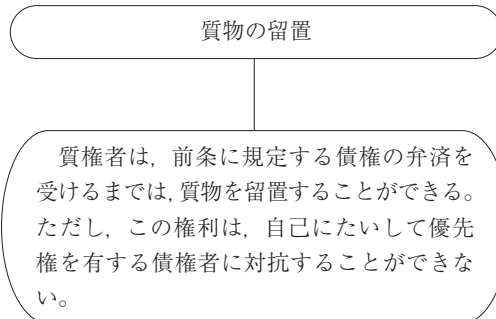
〔質権設定における，占有改定の禁止〕



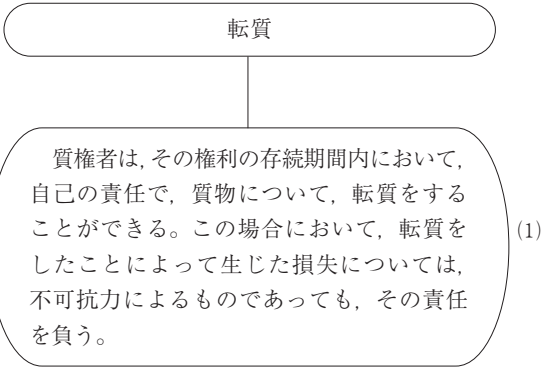
第346条



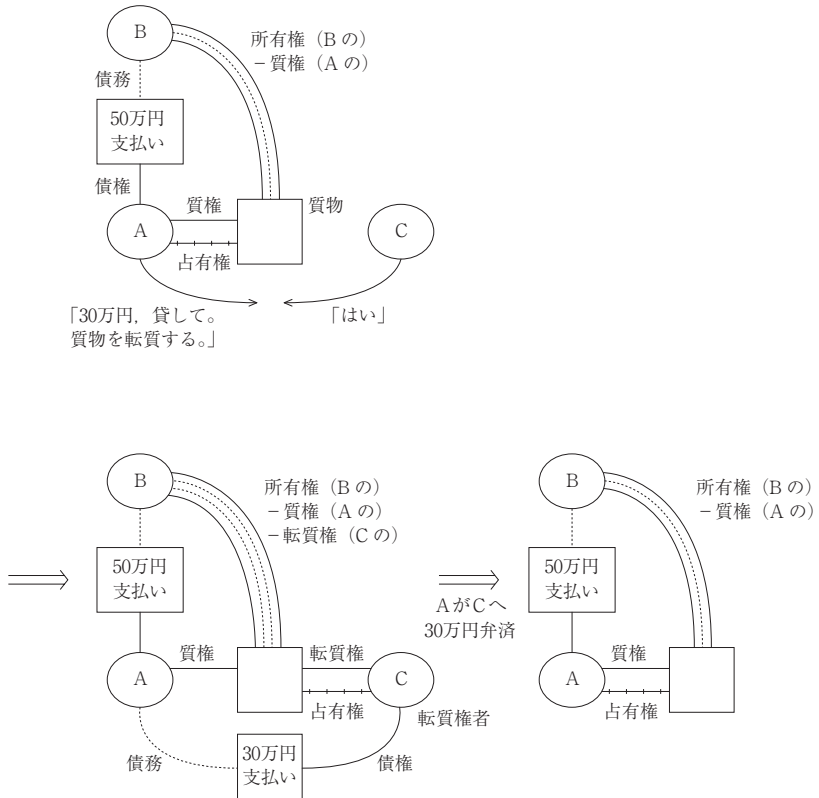
第347条



第348条



- (1) 転質については、諸学説がある。本稿では、質物の上に、新たに質権を設定すると考える、質物再度質入説を図解する。山川一陽ほか・口語民法・新補訂版を参照した。



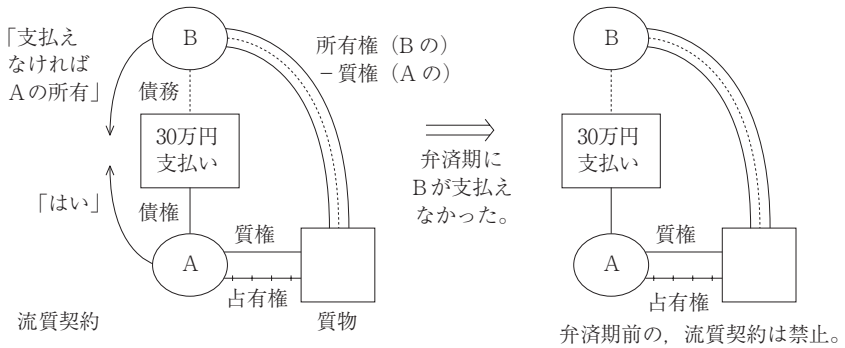
第349条

契約による質物の処分の禁止

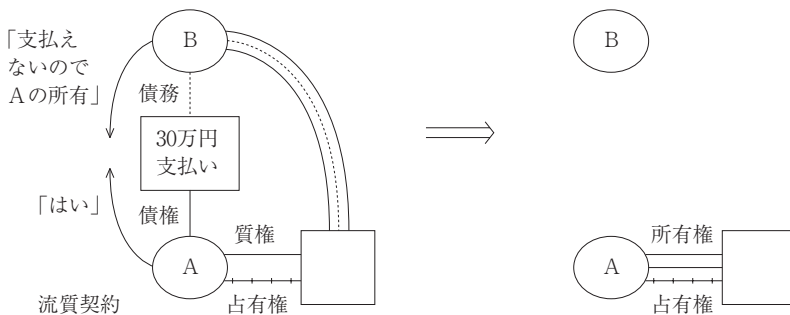
質権設定者は、設定行為または債務の弁済期前の契約において、質権者に、弁済として質物の所有権を取得させ、その他、法律に定める方法によらないで、質物を処分させることを約することができない。(1)

- (1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ質権設定者をBとする。Bが、Aにたいし、30万円支払いの債務があるばあい。以下、弁済期前と、弁済期後の流質契約を、図解する。

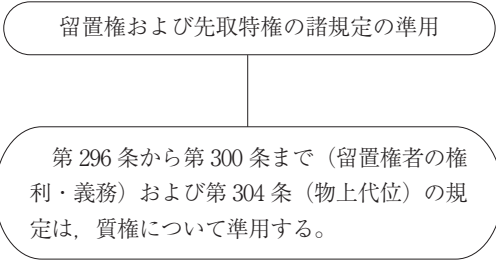
〔弁済期前〕



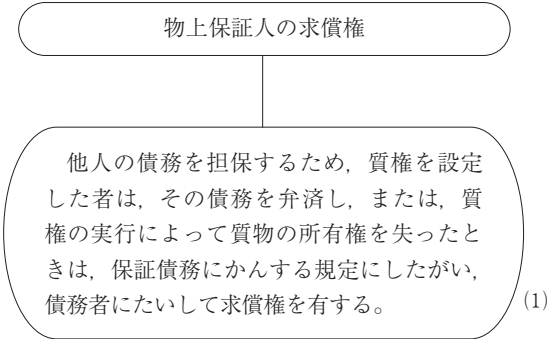
〔弁済期後〕



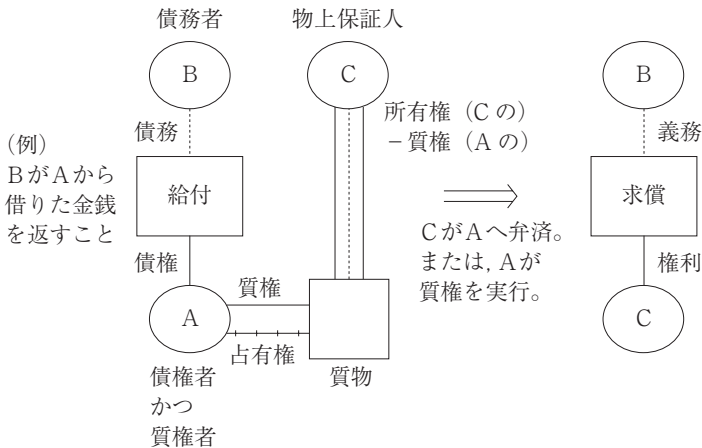
第350条



第351条



- (1) 債権者かつ質権者をA，債務者をB，他人の債務を担保するため，質権を設定した者すなわち物上保証人をCとする。

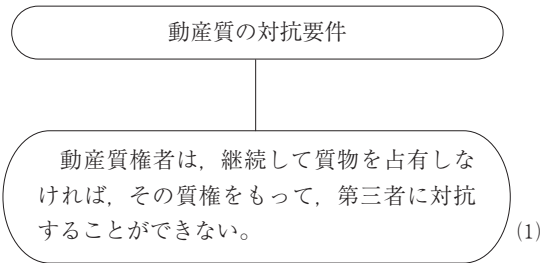


第2編 物権

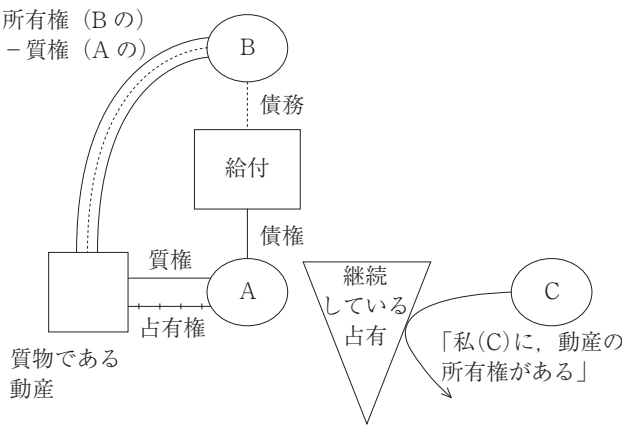
第9章 質権

第2節 動産質

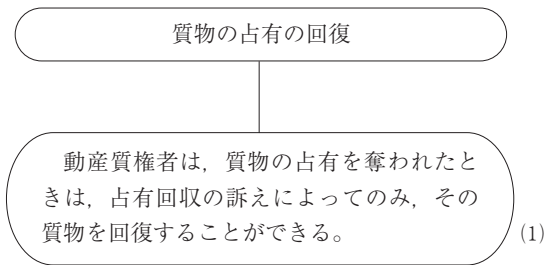
第352条



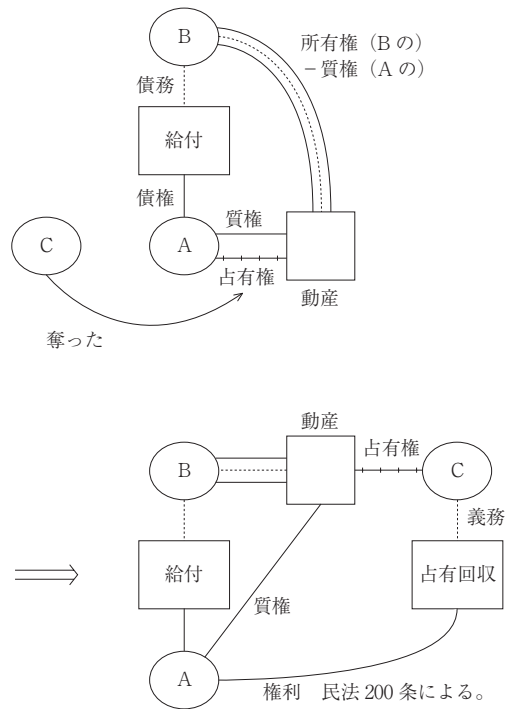
(1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ質権設定者をB、第三者をCとする。
る。



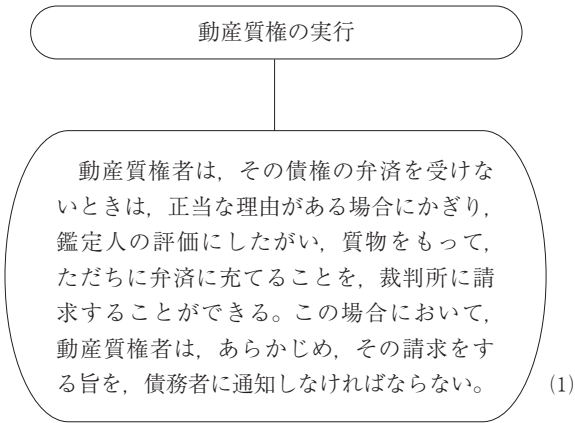
第353条



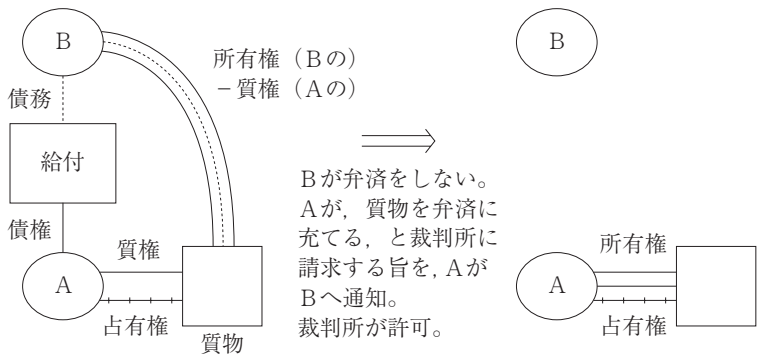
(1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ質権設定者をB、占有侵奪者をCとする。



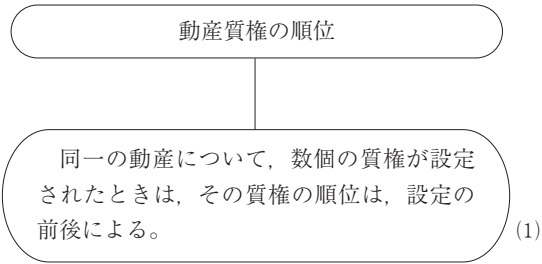
第354条



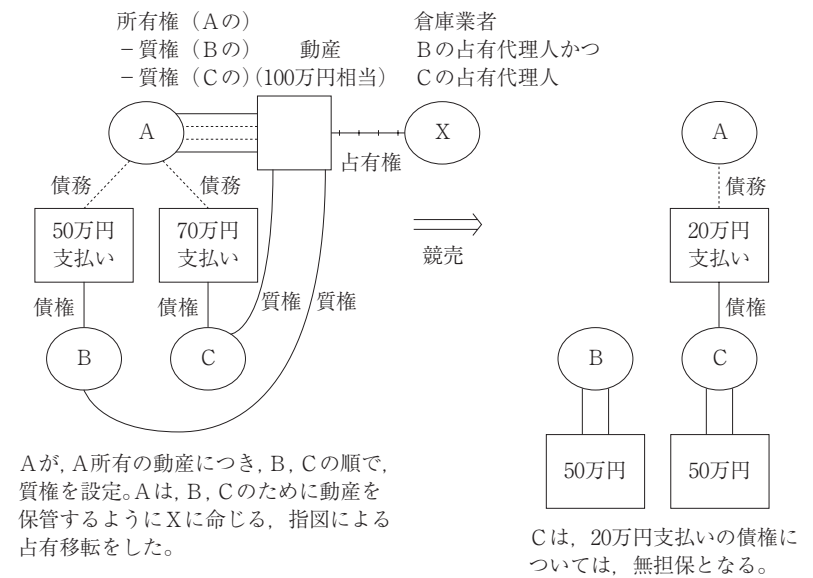
(1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ質権設定者をBとする。



第355条



(1) Aは債務者かつ質権設定者、B、Cは質権者、XはB、Cの占有代理人とする。山川一陽ほか・口語民法〔新補訂版〕167頁以下、水本浩・注釈民法(1)総則・物権〔第2版補訂〕321頁以下、小川英明・基本法コメントール〔第5版〕物権・226頁以下を参照して、図解する。

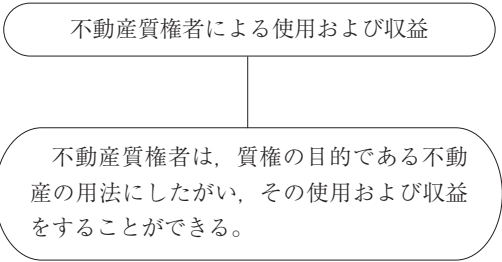


第2編 物権

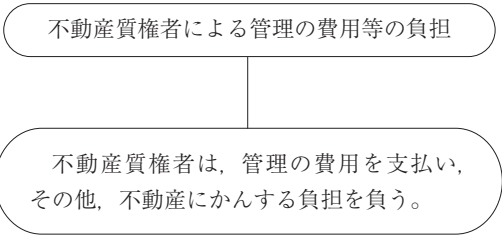
第9章 質権

第3節 不動産質

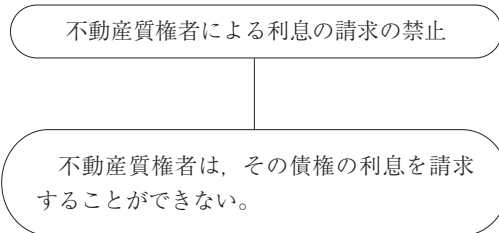
第356条



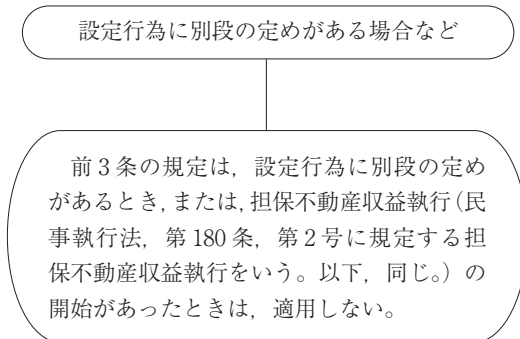
第357条



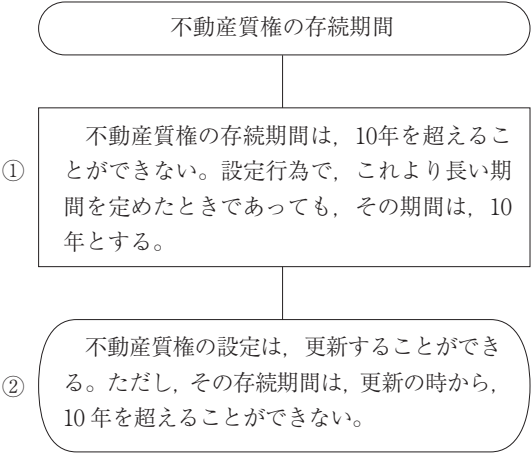
第358条



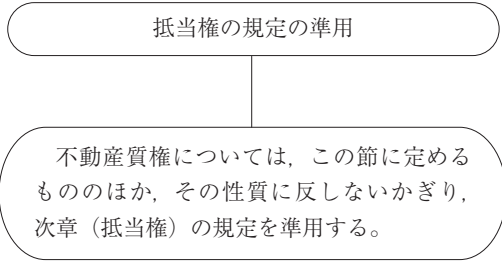
第359条



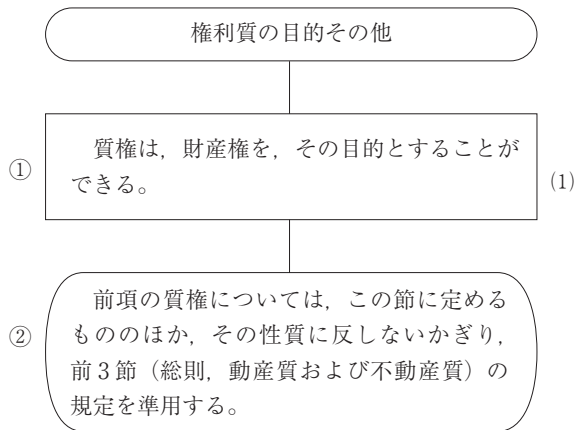
第360条



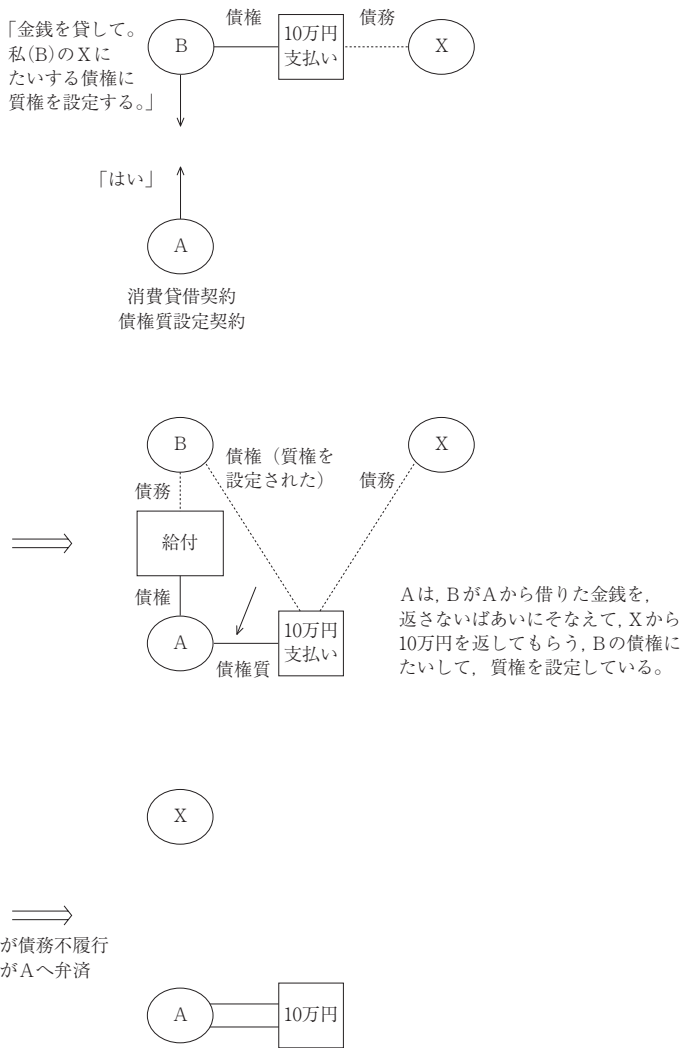
第361条



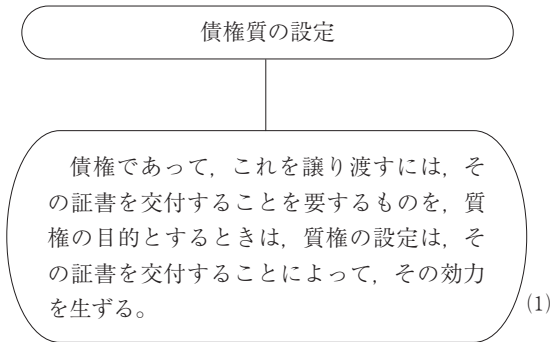
第2編 物権
第9章 質権
第4節 権利質
第362条



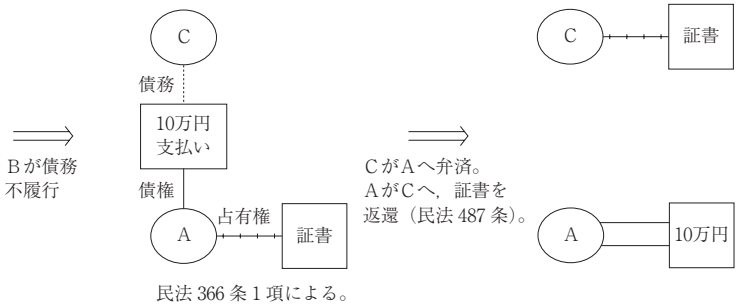
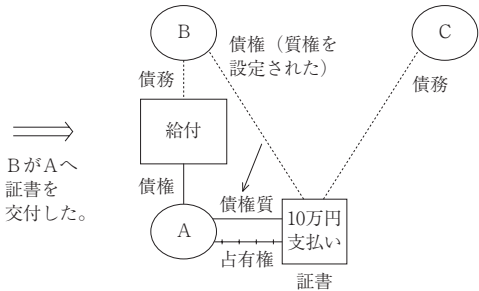
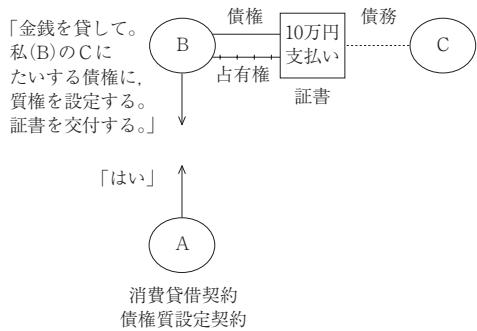
(1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ債権質設定者をB、Bのもつ債権についての債務者をXとする。山川一陽ほか・口語民法・新補訂版170頁を参照した。



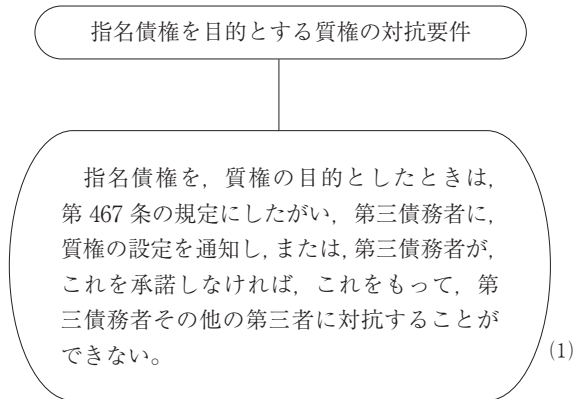
第363条



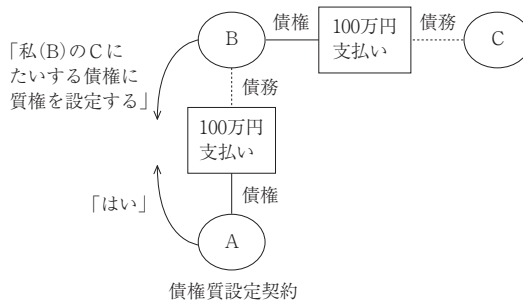
- (1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ債権質設定者をB、Bのもつ債権についての債務者をCとする。証書とは、たとえば、借用証書である。
丸山英気・口語物権法・補訂版438頁参照。

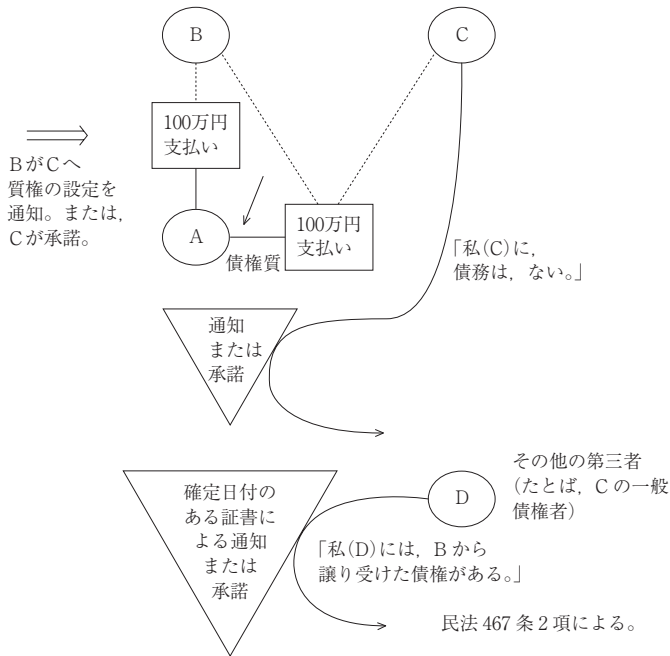
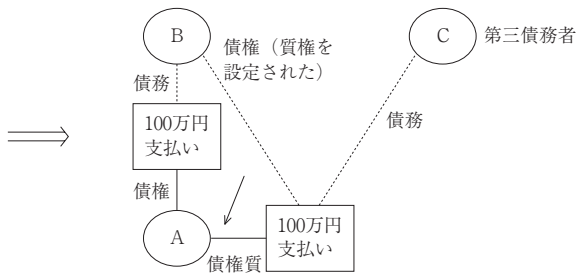


第364条

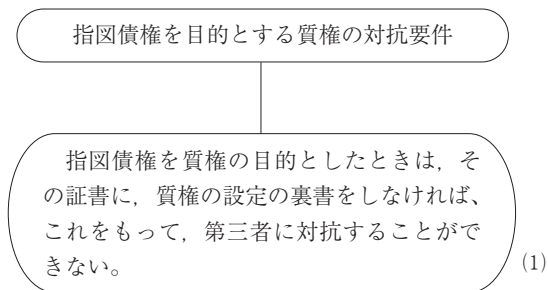


- (1) 債権者が特定している債権を、指名債権という。B は、A から100万円を借り受けた。B は、C にたいして持つ100万円支払いの指名債権について、A にたいする債務の担保として、A にたいし、質権を設定した。水本浩・注釈民法(1)〔第2版補訂〕326頁以下、丸山英気・口語物権法〔補訂版〕441頁以下、林良平・注釈民法(8)物権(3)349頁以下を参照して、図解する。

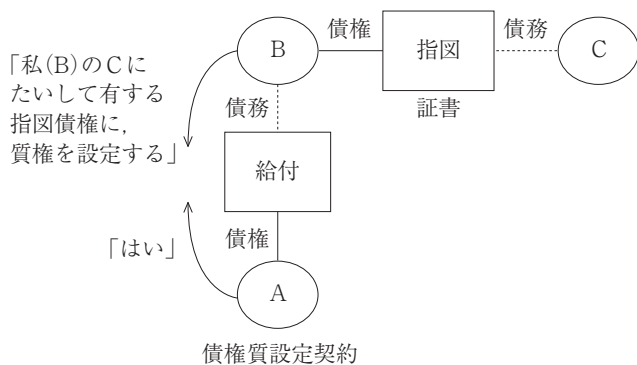


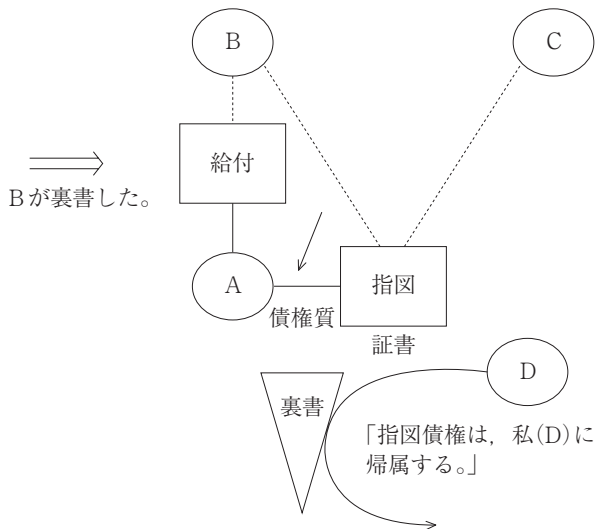
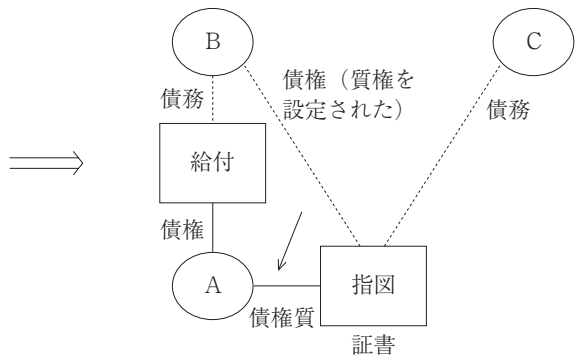


第365条

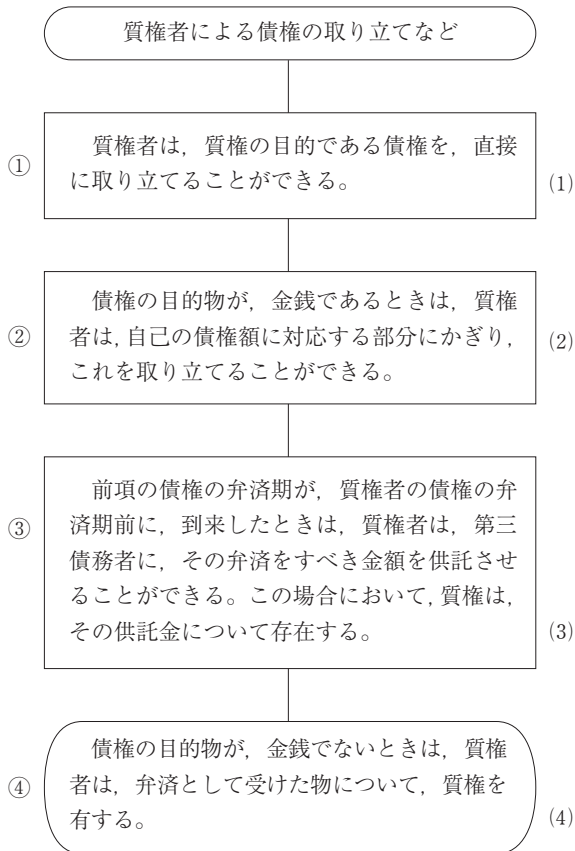


- (1) 債権者かつ質権者をA、債務者かつ質権設定者はB、Bが有する指図債権の債務者すなわち第三債務者をCとする。水本浩・注釈民法(1)総則・物権〔第2版補訂〕327頁以下によれば、指図債権とは、特定の人または、その指図する人に弁済すべき証券的債権である。



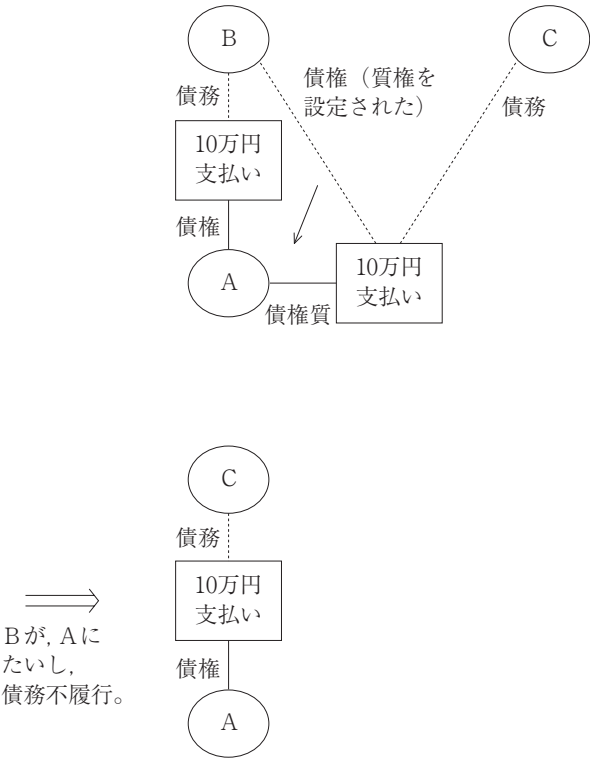


第366条

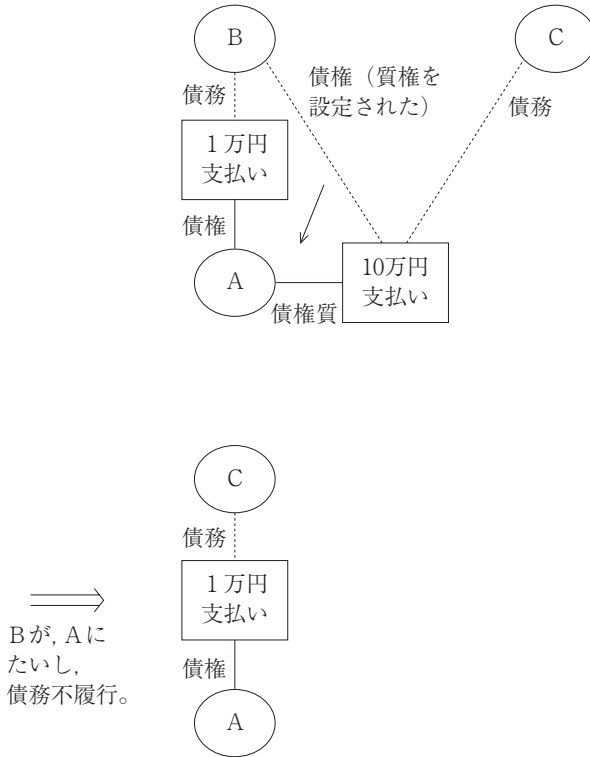


(1) 以下, (2), (3), (4)を含めて, 債権者かつ質権者をA, 債務者かつ質権設定者をB, 第三債務者をCとする。

AがBにたいし, 10万円支払いの債権をもっている。そのさい, Bが, Cにたいして持っている10万円支払いの債権について, 質権を設定し, Aが債権質をもったばあい。

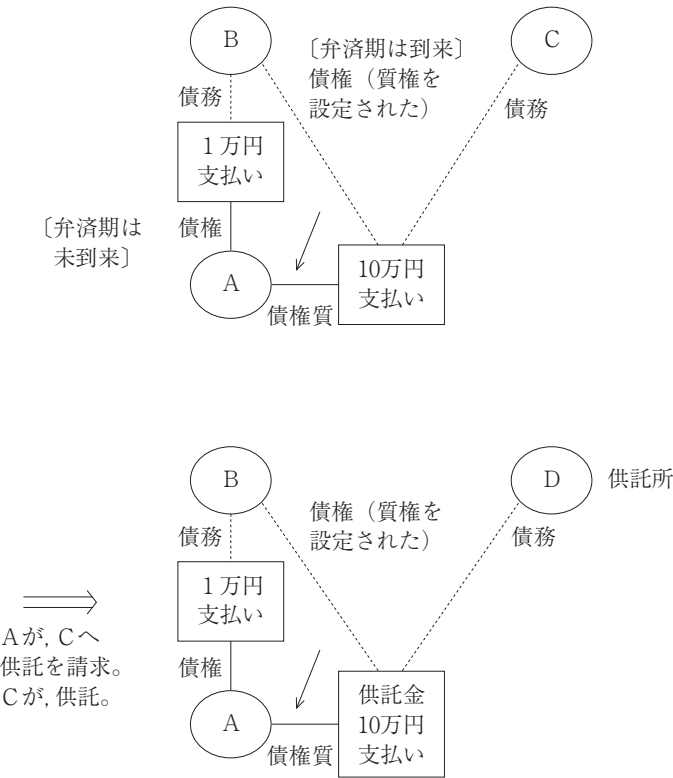


- (2) 山川一陽ほか・口語民法・新補訂版172頁，丸山英気・口語物権法・補訂版444頁を参照した。

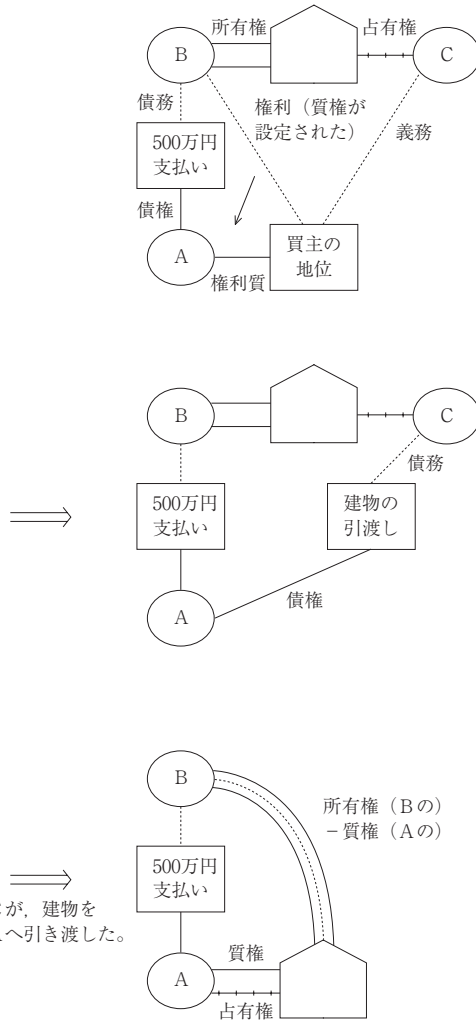


Aは、Cにたいし、元本については、1万円だけ請求できる。民法 346 条を参照。

(3) 林良平・注釈民法(8)・物権(3)361頁, 吉岡幹夫・小林明彦補訂・基本
法コンメンタル・物権〔第五版〕236頁を参照した。



- (4) 水本浩・注釈民法(1)総則・物権〔第2版補訂〕328頁，林良平・注釈民法(8)物権(3)363頁を参照した。



流経法学 第14巻 第2号

第367条および第368条
削除